

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		平成13年3月30日	安藤 廣美		〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚学科は、教育基本法の精神に則り、学校教育法並びに言語聴覚士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実発展に貢献するために言語聴覚士を養成する事を目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程		言語聴覚学科		平成25年文部科学 大臣告示第3号	—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3570	2220	870	480	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		111人		7人	42人	49人	
学期制度	■前期: 4月 1日～ 9月30日 ■後期: 10月 1日～ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする		
長期休み	■夏季: 8月13日～ 8月15日 ■秋季: 8月22日～ 9月 3日 ■冬季: 12月24日～ 1月 4日			卒業・進級条件	(進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)且つ学科試験・実習評価が60点以上をもって合格、単位履修、ならびに各学年の教育に基づいたものとする (卒業)全単位履修並びに欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内とする		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 随時個人面談実施し、長期欠席者0名の支援体制を継続している。			課外活動	■課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 医療機関・施設 ■就職率 <sup>※1</sup> : 88.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 65.2 % ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する平成28年4月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	言語聴覚士国家試験受験資格		
中途退学の現状	■中途退学者 10名		■中退率 9.3 %				
	平成27年5月1日 在学者 107名 (平成27年4月 入学者を含む)		平成28年3月31日 在学者 97名 (平成28年3月 卒業者を含む)				
	■中途退学の主な理由 進路の変更						
■中退防止のための取組 随時担任・学科長面接実施。保護者との連携における情報交換							
ホームページ	URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/arc">http://www.asojuku.ac.jp/arc</a>						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものととする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始次期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
安藤 廣美	専門学校麻生リハビリテーション大学 校長
大熊 一博	専門学校麻生リハビリテーション大学 校長代行
河元 岩男	専門学校麻生リハビリテーション大学 理学療法学科 主任
竹中 祐二	専門学校麻生リハビリテーション大学 作業療法学科 主任
灘吉 享子	専門学校麻生リハビリテーション大学 言語聴覚士科 主任
田中 裕二	専門学校麻生リハビリテーション大学 理学療法学科 副主任
大内田 由美	専門学校麻生リハビリテーション大学 作業療法学科 副主任
星子 隆裕	専門学校麻生リハビリテーション大学 言語聴覚士科 副主任
黒木 洋美	日本リハビリテーション医学会 認定医 (宮崎大学附属病院)
日高 幸彦	医療法人清幸会 三原城町病院 リハビリテーション科 主任
山下 智弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション科 医師
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長
比嘉 早苗	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 理学療法士
毛利 あすか	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 主任
秋山 絵吏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士
前田 知美	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士

(開催日時)

平成27年度

第1回 平成27年 9月25日 18:00~20:00

第2回 平成28年 3月25日 17:00~19:00

平成28年度

第1回 平成28年 9月23日 18:00~20:00(予定)

第2回 平成29年 3月24日 17:00~19:00(予定)

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実践を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。本校の臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床の場で、患者の評価、言語聴覚療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、言語聴覚士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての言語聴覚士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は、教職員に対して現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的としている。

その中で、業務遂行能力向上を目的とした研修として、全教員が企業と連携した「医療機関研修」を定期的実施しており、部門領域分野での研鑽を図っている。尚、研修に参加した教員は、その研修の成果をもって本校の業務に寄与し、研修によって付与された知識・技能等を職場において還元している。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
光田 真由美	【保護者】 作業療法学科(夜)1年次生保護者
西村 天利	【卒業生】 平成18年度 理学療法学科卒業生 (株式会社 麻生 飯塚病院)
松村 秀豊	【地域住民】 福岡市東光 公民館長
黒木 洋美	【有識者】 日本リハビリテーション医学会 認定医 (宮崎大学附属病院)
日高 幸彦	【企業】 医療法人清幸会 三原城町病院 リハビリテーション科 主任
井本 俊之	【企業】 株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長
比嘉 早苗	【企業】 株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 理学療法士
毛利 あすか	【企業】 株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 主任
秋山 絵吏	【企業】 株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士
前田 知美	【企業】 株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士
永田 俊一	【高等学校】 福岡県立福岡中央高等学校 主幹教諭

(学校関係者評価結果の公表方法) ホームページ

URL : [http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/hvoka\\_arc.pdf](http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/hvoka_arc.pdf)

### 5. 情報提供

(情報提供の方法) ホームページ

学校法人 麻生 塾 URL: <http://www.asojuku.ac.jp>

専門学校麻生リハビリテーション大学校 URL: <http://www.asojuku.ac.jp/arc>

授業科目等の概要

(医療専門課程 言語聴覚学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	心理学の基礎知識を習得する	1前	30	1	○			○			○		
○			芸術学	幅広い年齢層と接した際（実習を含め）コミュニケーションツールとして歌を用いる事が出来る様に童謡・唱歌・抒情歌・懐メロ・ポピュラーソングを中心に歌唱練習。又パフォーマンスのきっかけとして「手遊び歌」「わらべ歌」「手話ソング」を学ぶ。呼吸法や体の筋肉の使い方をストレッチを行いながら学んでいく。最後にクラス全体でプログラムを考え、発表会を開催し、クラス全体のコミュニケーション作りも学ぶ。	1後	30	1		○		○				○	
○			障害児教育学	1. それぞれの障害の困り感の理解 2. 障害児の学齢期における発達課題と教育について 3. 特別支援教育について 4. 学齢期における本人と家族の障害受容について	1後	30	1	○			○				○	
○			社会福祉学	社会福祉をさまざまな角度から理解し、リハビリ専門職にとって必要な社会福祉の知識と援助技術を身につける。	1前	30	1	○			○				○	
○			生物学	生物の基本単位は細胞であり、その生命活動は物理学および化学の法則にのっとっている事を理解する。生物とは何かを学ぶなかで、ヒトもまた生物であるという自覚を深める。言語聴覚にかかわる器官の形成過程を理解する。	1前	30	1	○			○				○	
○			統計学	データを適切に処理し、そのデータやデータの基になる集団の性質を正しく理解することは、医療分野を含む様々な分野の活動に携わる際に重要である。そこで本講義では、記述統計の概要を中心に、統計学の基礎理論について講述する。また、適宜演習を行うことで、実際にデータを処理し、データの性質を説明する能力を身につける。	1前	30	1	○	△		○				○	
○			情報処理	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を習得し、文書作成、表計算・グラフ作成・データ分析、スライド作成を効率的に行うことができる。レポート、サマリー、発表会資料の作成時に活用する事ができる。	1前	30	1		○		○			○		

○		英語 I	職場において外国からの患者様にも苦手意識なく接する事ができるよう、英語の表現を学ぶ。	1前	30	1	○	△	○			○
○		英語 II	日常生活での英会話の応用力を身につけるための英語コミュニケーション力を高める。	1後	30	1		○	○			○
○		医学英語	英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。同時に、生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。	2通	60	2	○		○			○
○		保健体育	身体を単純に動かすのではなく、楽しく動かす事や動かし方、説明方法など、他者に対して理解しやすい伝え方などを体験し、グループ毎でオリジナルの運動方法を創作する事により、組織作業を模擬体験し、組織力や企画・想像・応用力を養う。	1通	60	2	○		○		△	○
○		文章講座	文章の基本的な決まりを理解し、文章の構成を整える事ができるようになることを目標とします。本講義では積極的に表現することが求められます。気付いたこと、感じたこと、学んだことを書き出します。	1前	30	1	○		○			○
○		接遇講座	コミュニケーション技能としての接遇を学びます。感謝心を基本とし、自分の志を見つめ直します。自分以外の人の志にも触れ、協同できる環境をつくります。	1後	30	1	○		○			○
○		医学総論	医療に関連するスタッフとして必要な基礎知識を学ぶ。当事者の談話や文献などを活用しながら、総合的に考える力を身につける。	1前	30	1	○		○			○
○		解剖学	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する器官系の大要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。	1前	30	1	○		○			○
○		解剖学演習	言語聴覚士として必要な内臓学の基礎を学習する。また、感覚器系・神経系の構造を機能と関連付けて理解する。骨格系について、骨模型を観察することで講義で学んだ知識をより確実なものとする。	1後	30	1		○	○			○
○		生理学	人体についての基礎知識は医療に携わるひとは欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み（機能）を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。	1前	30	1	○		○			○
○		生理学演習	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。	1後	30	1		○	○			○



○		心理測定法	多様な測定方法の基礎を理解する。実習を行いデータ収集・整理ができるようにする。測定されたデータを理解できるようにする。	2後	30	1	○			○				
○		言語学	言語学及び日本語学の基礎的な知識を紹介する。目標は、国試レベルの知識を身に付けることである。	1通	60	2	○			○				○
○		音声学	私たちは普段人と話をする際、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。音声に対する理解を深めることは臨床現場において有益なものであると言えます。この授業では発音、知覚、物理の3つの側面について、音声の知識を身につけると同時に、実践練習を積むことで音声を扱えるようになることを目指します。前期は、発音（調音音声学）の観点から、日本語の音声を考えていきます。	1通	60	2	○			○				○
○		音響学（聴覚心理学含む）	①音の物理的性質およびその性質を量的に表現する様々な単位について学ぶ ②電気音響機器に関する基礎的事項について学ぶ ③音声の生成、分析・合成に関する基礎的事項を学ぶ	1通	60	2	○			○				○
○		言語発達学	人間の誕生から死ぬまでの生涯発達の観点から、ことばの獲得、獲得の条件、発達過程について学ぶと同時に、言語発達に関係する他の領域の基礎も学習する	1通	60	2	○			○				○
○		リハビリテーション概論	合同合宿（準備を含む）を通して ①リハビリテーションの基礎を知る。 ②チームアプローチの重要性を理解する。	2前	30	1	○			○				○
○		社会保障制度（関係法規含む）	・社会保障の全体の仕組みを理解し、個別の保険制度を学ぶ ・言語聴覚士に関わる法律や規定を理解する ・関連職種に関する理解を深める ・実際に働くにあたって必要な法律や規定を知る	3前	30	1	○			○			○	△
○		言語聴覚障害総論Ⅰ	①言語聴覚士とは何か、どのような仕事をするのかについて具体的イメージをもつ ②言語聴覚士が対象とする障害について概観する ③毎回の小テストを通して、勉強の仕方を知る	1前	30	1	○			○				○
○		言語聴覚障害総論Ⅱ	①小児発達のイメージを持つ ②患者団体との交流を通して、障害の実際と言語聴覚士の役割を知る ③仲間達との共同作業を通して、コミュニケーションとチームで動くことを学ぶ ④レポートの書き方を学ぶ	1前	30	1	○			○				○
○		言語聴覚障害総論Ⅲ	ホームルームや実習報告会を通して、医療従事者としての意識を高める。	2前	30	1	○			○				○
○		言語聴覚障害総論Ⅳ	①S-S法の特性的理解と実施手順の習得。 ②S-S法の結果・解釈を学ぶ。 ③発達検査により評価を行い、子どもの全体像をとらえる。	2後	30	1	○			○				○
○		言語聴覚障害総論Ⅴ	・実践で使える検査法を修得する ・様々な検査法を理解する	3後	60	2	○			○				○

○		失語症Ⅰ	失語症について、その歴史の経緯及び基本的な症状について理解する。評価・診断・治療を概観し、失語症に対する言語聴覚療法について理解を深める。	1後	30	1	○			○	○		
○		失語症Ⅱ	1. 失語症に関わる各種検査法を学び、評価・診断について理解する。 2. 評価・診断をもとに治療法の理論と目的・効果について理解する。	2前	60	2	△	○		○	○		
○		失語症Ⅲ	失語症の治療について、より具体的な方法を学ぶ。症例をもとに問題点の抽出や訓練内容について検討し、症例報告を行う。	2後	60	2	△	○		○	○		
○		失語症Ⅳ	1. 現場の言語聴覚士から、症例を通して、失語症臨床の実際について学ぶ 2. ICFと目標指向的アプローチの実際について学ぶ 3. 高次脳機能障害を含めた「教材」の例について学ぶ	3前	30	1	○			○	○	△	
○		高次脳機能障害Ⅰ	高次脳機能障害に関しての概念を理解し、定義や症状など基礎知識を習得する。	1後	30	1	○			○	○		
○		高次脳機能障害Ⅱ	神経心理検査の基礎を学び、適切な検査の選択と施行ができるようになる。	2前	30	1	○	△		○	○		
○		高次脳機能障害Ⅲ	高次脳機能障害の訓練立案ができる。前期の復習と検査演習ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。国家試験に向け知識の定着を図る。	2後	60	2		○		○	○		
○		言語発達障害Ⅰ	小児の言語発達の阻害要因となる諸障害についてその特性と基本的症状を理解する	1通	60	2	○			○		○	
○		言語発達障害Ⅱ	1. 脳性麻痺児の特徴と発達上の問題を理解する。 2. 言語発達障害と摂食機能障害の評価と訓練について理解する。	2前	30	1	○			○		○	
○		言語発達障害Ⅲ	1. 学習障害の特性と困り感の理解 2. ADHDの特性と困り感の理解 3. 田中ビネー・WISC-Ⅲ(Ⅳ)・K-ABCおよびDN-CASの検査特性の理解と分析 4. 学習障害を持つ子どもへの検査の生かし方	2前	30	1		○		○		○	
○		言語発達障害Ⅳ	自閉症スペクトラムの基本的知識と臨床像を理解する	2通	60	2		○		○	○		
○		言語発達障害Ⅴ	達検査の特性の理解。新版K式発達検査の特性の理解。検査結果のまとめ。	2前	30	1		○		○		○	
○		言語発達障害Ⅵ	発達検査の特性の理解。検査結果のまとめ。発達検査により評価を行い、子どもの全体像をとらえる。ITPAの特性の理解。	2後	30	1		○		○		○	
○		音声障害	音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他の医師との連携、言語聴覚士として能力)を理解する。音声治療の実際について学ぶ。	2後	30	1	○			○		○	
○		機能性構音障害	発声発語器官の形態と機能、および音声学的視点から、評価、立案、実施、再評価できる知識と臨床的実践力を身につける。	2後	30	1	○			○		○	
○		器質性構音障害	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。	2前	30	1	○			○		○	

○		運動障害性構音障害Ⅰ	1) 構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。 2) 構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。 3) 言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人の課題を具体的に見つけることができる。	2前	30	1	○		○	○			
○		運動障害性構音障害Ⅱ	①運動障害性構音障害についての基礎的な知識を理解するとともに、その知識を診断・治療に生かしていくことができる。 ②専門家として必要な態度について理解し、実行することができる。 ③能動的に授業参加することができ、積極性をもって遂行することができる。	2後	60	2	△	○	○	○			
○		嚥下障害Ⅰ	摂食嚥下障害の臨床活動に必要な基礎知識を習得します。初期の目標は、食に関わる機能を学び、摂食時に何が行われているのかを説明することができるようになることです。中間期は機能が正常とはいいがたくなつたときの困難さと、何に困っているのか、その原因は何なのかを知る手段を学びます。終講までには、困難さを持った方々への援助方法を学びます。	2前	60	2	○	△	○	○			
○		嚥下障害Ⅱ	嚥下障害を持つ方の困難さを理解し、原因、状態から臨床仮説を行い、支援する流れを学ぶ。検査は観察と測定を同時に行うことであり、手技のみでは情報を得ることができないということを念頭に置き、反復した練習を行う。	2後	60	2	△	○	○	○	△		
○		拡大・代替コミュニケーション学	・コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。 ・コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。	3前	30	1	○	△	○	○			
○		吃音	吃音について正しい知識と最近の研究動向を学ぶ。吃音臨床に関する検査法、指導・訓練法を知る	2後	60	2	○		○	○			
○		聴覚障害Ⅰ	Ⅰ聴こえの仕組みと難聴の種類について基本的知識を得る。 Ⅱ「聴こえにくいこと」について具体的イメージをもつ。	1通	60	2	○	△	○		○		
○		聴覚障害Ⅱ	①聴覚障害の臨床を行うにあたり必要な“聴覚障害学”、“耳鼻咽喉科学”の基礎的知識を学ぶ。 ②各種聴覚検査の原理・目的を理解し、検査手順を身に着ける。 ③後期の“臨床”学習前段階として、小児難聴と中途失聴者との違いを理解する。	2前	30	1	○		○		○		

○		聴覚障害Ⅲ	①聴器の発生・生理を理解し、聴覚障害の機序を理解する。 ②新生児～幼児を対象とする聴覚検査の対象年齢・検査目的・原理を理解し、検査方法を習得する。 ③聴覚補償機器の選択と発達を理解する。 ④聴覚障害の種類と程度、発症時期などから訓練を立案計画できるようになる。	2後	30	1	○		○		○		
○		聴覚障害Ⅳ	I. 視覚聴覚二重障がいを中心に重複障がいの基礎的知識を理解。 II. 盲ろう二重障がい児の言語発達を考える。 III. 盲ろう二重障がい児者の言語・コミュニケーション支援の在り方を学ぶ。	2後	30	1	○		○		○		
○		聴覚障害Ⅴ	・実践で使える検査法を修得する ・様々な検査法を理解する	3前	30	1	○	△	○		○		
○		聴覚障害Ⅵ	I. 視覚聴覚二重障がいを中心に重複障がいの基礎的知識を理解。 II. 盲ろう二重障がい児の言語発達を考える。 III. 盲ろう二重障がい児者の言語・コミュニケーション支援の在り方を学ぶ。	2前	30	1	○		○		○		
○		臨床実習	臨床の場で、患者の評価、療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科（部）、言語聴覚士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての言語聴覚士の資質を養う。	3通	480	12			○		○		○
○		画像診断学	画像検査装置一般の概要を提示する。また画像によりえられる情報を提示する。	2前	30	1	○		○		○		
○		臨床技術学Ⅰ	事後セミナーを行い、学びを共有する。臨床教育指導者の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実践を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことになる。	1後	30	1	○			○	○	△	
○		臨床技術学Ⅱ	リスク管理を始めとして、臨床実習に臨む上で必須だが、直接教科学習で学ぶ機会の少なかった事項について、実習前セミナーの形で学ぶ。	3通	90	3	○	△	○		○	△	
○		評価演習	臨床実習に行く前の準備として重要な一環と位置付け。医療人としての資質を養うことはもちろん多様な患者を体験し、評価・目標設定・言語療法プログラム作成ができることを目的とする。	2後	120	3	△	○		○	△	○	
合計			78科目	3570単位時間（114単位）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1学年の学期区分	Ⅱ期
	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。